

事務事業名		水生生物調査事業				評価区分(事前評価・事後評価)			事後評価(A・B表)		
政策体系	基本目標	1	地域の特色を活かした快適なまちづくり			担当	担当部	市民生活部	担当課	環境政策課	
	政策	3	環境にやさしいまちづくり			組織	担当係	環境保全係	担当課長名	川俣 浩	
	施策	2	良好な生活環境と豊かな自然環境の保全			新規事業・継続事業		継続事業			
	基本事業	1	良好な生活環境の保全			実施計画事業・一般事業		実施計画事業			
予算科目	短縮コード	会計	款	項	目	予算細事業名					
	7735	一般	4	1	6	水生生物調査事業					
	事業計画		単年度繰り返し	事業期間	S62年度～	年度	根拠法令 条例等	環境基本法 水質汚濁防止法		事業区分	市単独事業・国県補助事業
								任意の事業・義務的の事業	任意の事業	実施方法	一部委託
								事業分類	検査・調査事務	リーディングプロジェクト	該当なし
								市長マニフェスト	該当なし		

1. 事務事業の現状把握【DO】

(1) 事務事業の手段・目的・結果・各指標

① 手段(事務事業の主な活動内容を記入します。)									
事業概要(具体的な事務事業の活動内容・進め方)					平成28年度実績(平成28年度に行った主な活動内容)				
環境基準の指標となる化学的調査は、変動を受けやすいため、河川の安定した評価となる水生生物調査を実施し、河川の水質の状況を監視する。 市内9河川21地点における水生生物を調査調査対象は、出流川、仙波川、旗川、彦間川、菊沢川、才川、秋山川、渡良瀬川、三杉川の9河川 なお、平成29年度からの河川水調査は化学的調査に一本化し、この事業は終了とする。					平成28年11・12月に市内9河川21地点で、水生生物の調査を実施した。				
		活動指標	単位	25年度(実績)	26年度(実績)	27年度(実績)	28年度(実績)	29年度(見込)	
		水生生物調査数	調査	21	21	21	21	-	
② 対象(この事務事業は誰・何を対象としていますか?)									
河川水		対象指標	単位	25年度(実績)	26年度(実績)	27年度(実績)	28年度(実績)	29年度(見込)	
		河川数	河川	12	12	12	12	-	
目的 ③ 意図(この事務事業によって、対象をどのような状態にしたいのですか?)									
河川水質の把握		成果指標	単位	25年度(実績)	26年度(実績)	27年度(実績)	28年度(実績)	29年度(目標)	
		きれいな河川水の地点数	地点	13	15	11	16	-	
④ 結果(どのような結果に結びつきますか?)									
良好な生活環境が維持されている。		上位成果指標	単位	25年度(実績)	26年度(実績)	27年度(実績)	28年度(実績)	29年度(目標)	
		河川・地下水の環境基準の達成率	%	-	99.4	99.0	99.0	-	

(2) 総事業費の推移・内訳

事業費 投入量	財源内訳	単位	25年度(実績)	26年度(実績)	27年度(実績)	28年度(実績)	29年度(目標)	
	国庫支出金	千円						
	県支出金	千円						
	地方債	千円						
	その他	千円						
	一般財源	千円	347	346	346	346	0	
	事業費計(A)	千円	347	346	346	346	0	
	事業費の内訳	千円	項目	事業費	項目	事業費	項目	事業費
			13 委託料	347	13 委託料	346	13 委託料	346
	人件費	正規職員従事人数	人	1	1	1	1	0
	のべ業務時間	時間	20	20	20	20	0	
	人件費計(B)	千円	78	79	78	77	0	
	トータルコスト(A)+(B)	千円	425	425	424	423	0	

事務事業名	水生生物調査事業	担当部	市民生活部	担当課	環境政策課	担当係	環境保全係
-------	----------	-----	-------	-----	-------	-----	-------

(3)事務事業を取り巻く環境変化・市民の意見等

①この事務事業は、いつ頃、どのようなきっかけで開始しましたか？	水生生物による河川調査の方法が国内において広く採用され、佐野市においては昭和62年から実施した。
②事務事業を取り巻く環境(対象者や国・県などの法令等、社会情勢など)は事務事業の開始時期や合併前と比べてどのように変化していますか？	河川水は下水道や合併処理浄化槽の普及により改善はされているものの、市内の主な河川が全て「きれい」となるまでは相当の期間を要すると思料される。
③この事務事業に対して、関係者(市民、議会、事務事業対象者)からどのような意見・要望がありますか？	市民参加で実施したらどうかという意見があった。

(4)前年度の評価結果に対する改革・改善の取組

前年度の評価結果	評価結果を受けて行った具体的な改革・改善の取組
現状維持	現状維持により対象外

2. 事務事業の事後評価【Check】

目的 妥当性 評価	①政策体系との整合性 この事務事業の目的(対象・意図)は、政策体系(結果)に結びついていますか？	
	結びついている	理由・改善案 河川の水質状況を確認し市内の水環境の状況を把握できるので結びついている。
	②公共関与の妥当性 なぜこの事務事業を市が行わなければならないのですか？ 民間やNPO、市民団体などに委ねることはできませんか？	
	委ねられる・委ねられる可能性がある	理由・改善案 公共用水域の監視は、行政が主体的に行う必要があるが、NPOや市民団体との協働も考えられる。 しかし、正確な調査を実施するためには、人材の育成(有資格者)等解決しなければならない問題も多い。
	③対象・意図の妥当性 事務事業の現状や成果から考えて、対象と意図を見直す必要がありますか？	
	妥当である	理由・改善案 現在の時点では、妥当である。
有効性 評価	④事務事業の成果向上余地 事務事業の成果は出ていますか？ 事務事業のやり方・進め方を見直すことで成果を向上させることができますか？	
	成果向上余地がない	理由・改善案 現調査で効果は出ている。
	⑤類似事務事業との統合・連携の可能性 類似の目的や活動形態を持つ他の事務事業がありますか？ ある場合は、その事務事業との統合・連携ができますか？	
	類似事務事業はない	理由・改善案 類似事務事業名
	*類似事務事業があれば、名称を記入	
効率性 評価	⑥事業費・人件費の削減余地 事務事業の成果を低下させずに事業費・人件費を削減することができますか？	
	事業費の削減余地がある	理由・改善案 他の調査と一体で業務委託すれば、削減できる可能性がある。 また、市民との協働により実施することで削減できる可能性がある。
公平性 評価	⑦受益者負担の適正化余地 この事務事業の受益者は誰ですか？事務事業の目的や成果から考えて受益者負担を見直す必要がありますか？	
	受益者負担を求める必要がない	理由・改善案 特定の者に行う事業ではない。
総合 評価	⑧本事業の休止・終了条件(本事業はどんな状態になれば休止・廃止、事業終了となるか？)	
	環境基準の確認のみでそれを補完する本事業による「きれい」度の確認は不要との結論、もしくは、科学的知見に基づいた新たな判定方法への移行となれば廃止できる。	

3. 評価結果の総括と今後の方向性【Action】

(1)今後の事務事業の方向性	(2)改革・改善による期待効果	(3)改革・改善を実現するうえで解決すべき課題(壁)とその解決策																								
事業のやり方改善(成果向上の見直し) *評価結果に基づいた改革改善案を記入します。(複数ある場合は、①②・・・と記入します。現状維持の場合は記入しません。) ①他の調査と一体での業務委託の方法を検討する。 ②市民との協働による実施を検討する。	廃止・休止の場合は、記入不要 ×の領域は改革改善ではない。 <table border="1"> <tr> <td></td> <td></td> <th colspan="3">コスト</th> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <th>削減</th> <th>維持</th> <th>増加</th> </tr> <tr> <th rowspan="2">成果</th> <th>向上</th> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <th>維持</th> <td></td> <td></td> <td>×</td> </tr> <tr> <th>低下</th> <td></td> <td>×</td> <td></td> <td>×</td> </tr> </table>			コスト					削減	維持	増加	成果	向上				維持			×	低下		×		×	協働する人材の育成
		コスト																								
		削減	維持	増加																						
成果	向上																									
	維持			×																						
低下		×		×																						